

4 - 3 伊豆半島の地殻変動

Crustal Movement in the Izu Peninsula

国土地理院

Geographical Survey Institute

第1図から第9図は伊豆半島の1983年5～6月の水準測量結果とそれ以前のものと比較したものである。

第1図の沼津、熱海間、第2図の熱海、小田原間は過去1年間変化はなく、前の年に指摘された熱海、小田原側の沈下は継続しなかった。

第3図では熱海、伊東に対する東伊豆、河津の隆起が注目される。河津は、第4図にみるように修善寺に対しても隆起に転じている。内浦、伊東間（第5図）では、1982年5～6月との比較では、伊豆の側がなお1年で4cmの隆起を示している。一方、土肥、天城湯ヶ島間（第6図）、中伊豆、伊東（B. M. 9335）間（第7図）では変動がなかった。以上と総合して、伊東付近の隆起はなおつづいているが、活動域は以前に比べて南下したものとみられる。

第5図、内浦、伊東間は1982年10～11月にも観測が行なわれた。しかしその前後の観測との比較では、地形とよく相関した、隆起、沈降の反転がみられ、1982年10～11月の測定に何らかの誤差が異常に大きかったものと思われる。

第8図、第9図は、沼津、内浦、土肥を結ぶ路線で、変化は極めて小さい。

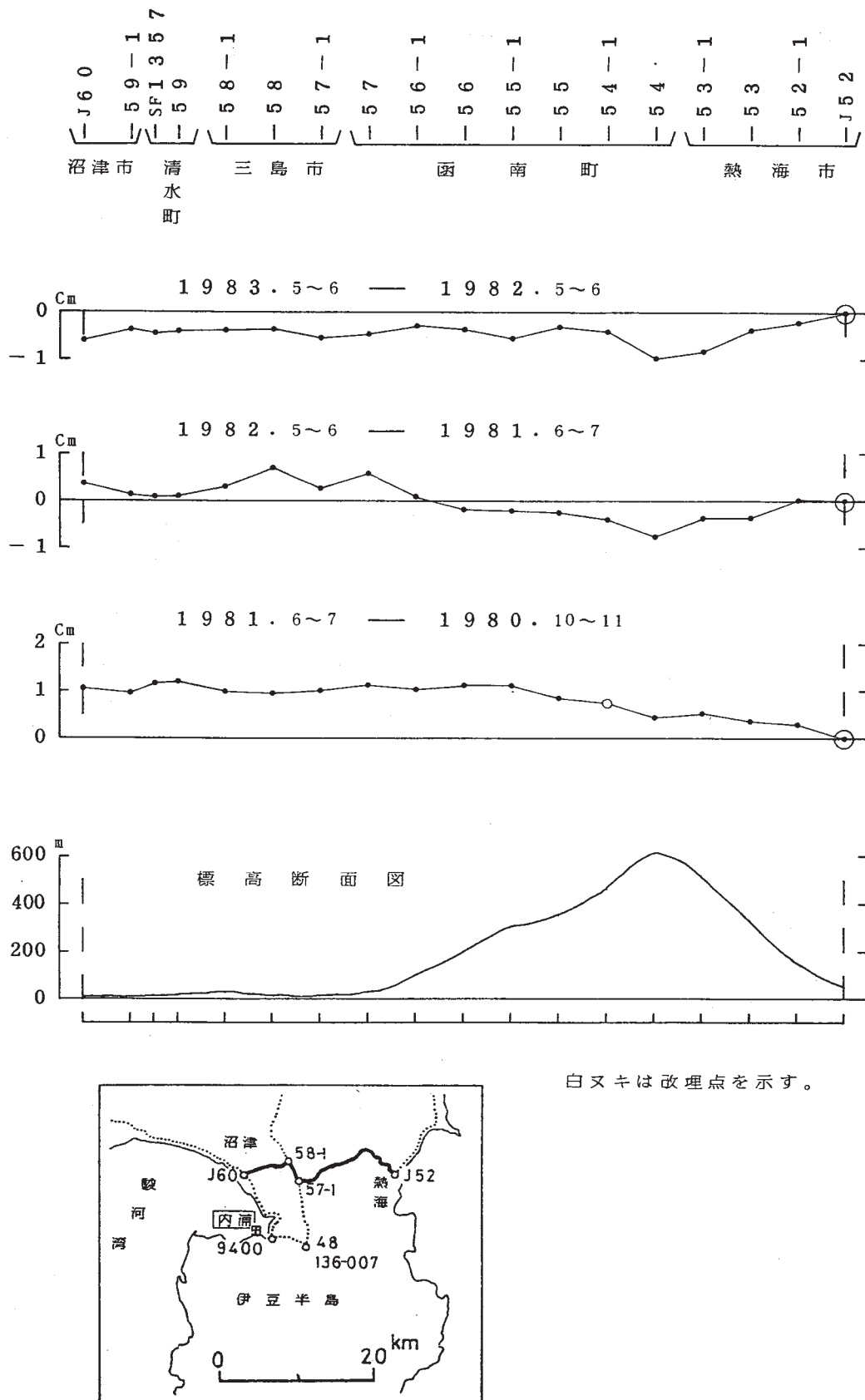
第10図は、網平平均値による過去1年間の変動量である。

第11図は、内浦を固定したときの、中伊豆、伊東の三ヶ所の水準点の比高の経年変化である。

第14図、第15図は、網代、川奈精密変歪測量及び南伊豆放射基線測量の結果である。いずれも有意な変化はない。

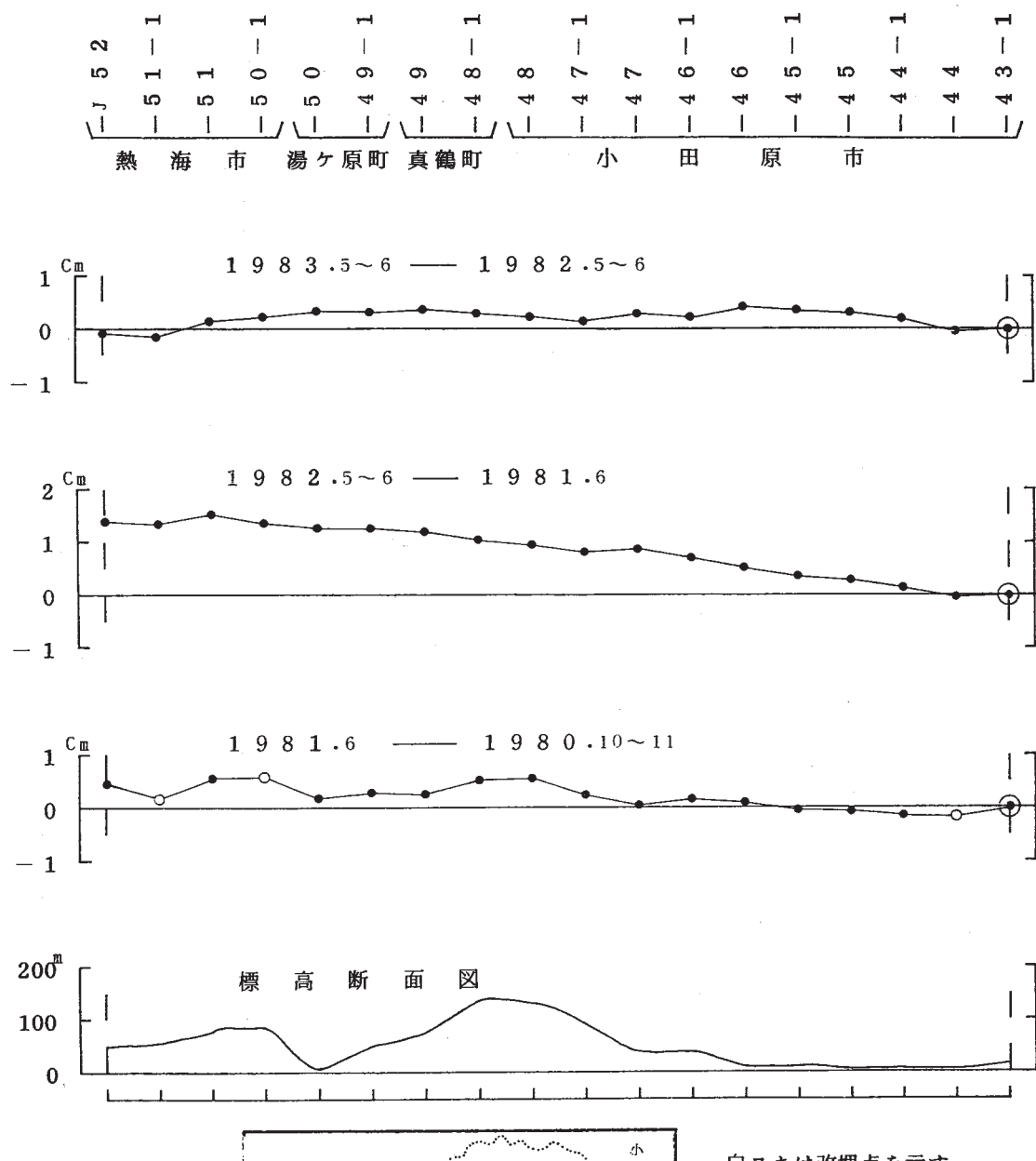
参 考 文 献

- 1) 国土地理院地殻調査部：伊豆半島の地殻変動，連絡会報，**25**（1981），118 - 125.
- 2) 国土地理院：伊豆半島の地殻変動，連絡会報，**29**（1983），147 - 167.



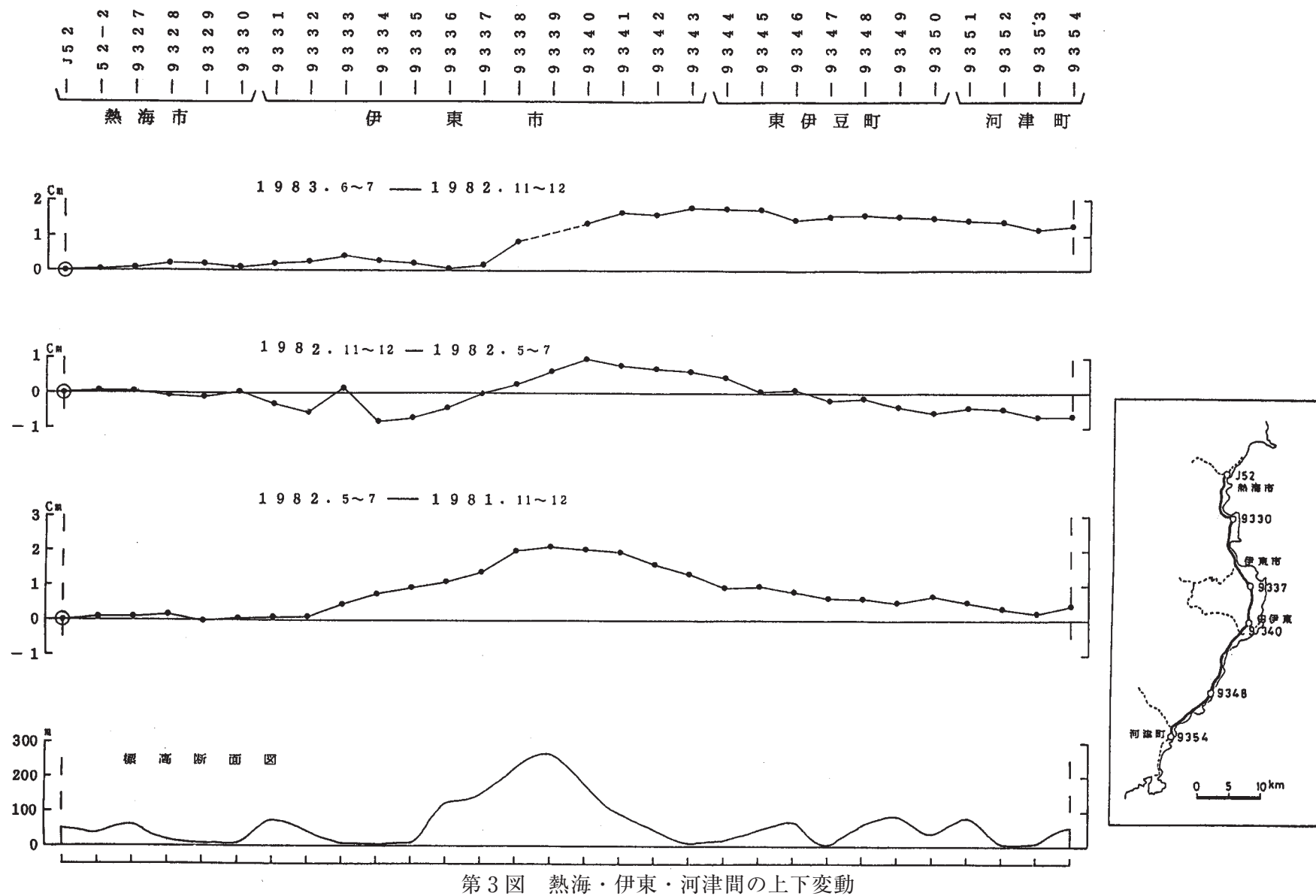
第1図 沼津・熱海間の上下変動

Fig. 1 Level changes along the route from Numazu to Atami.



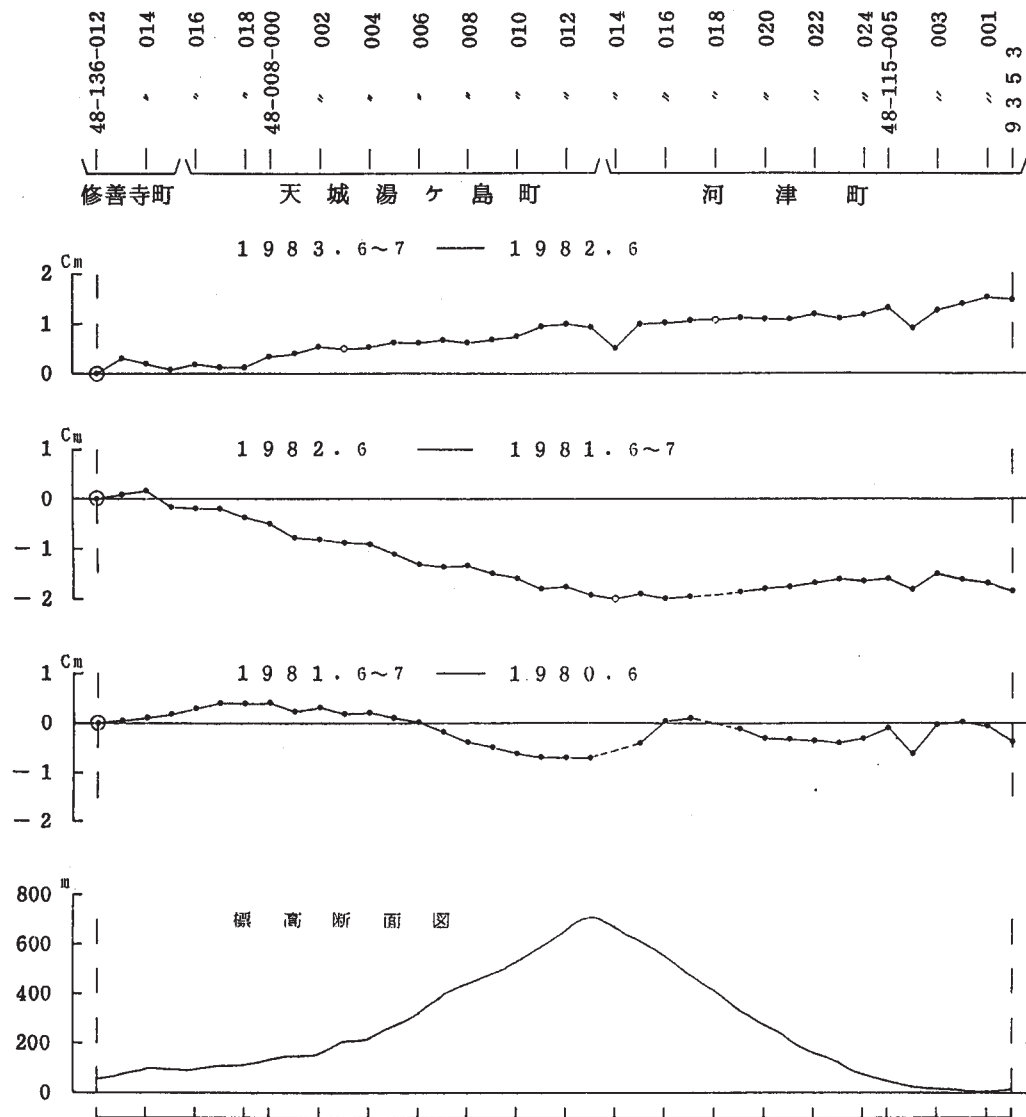
第2図 熱海・小田原間の上下変動

Fig. 2 Level changes along the route from Atami to Odawara.

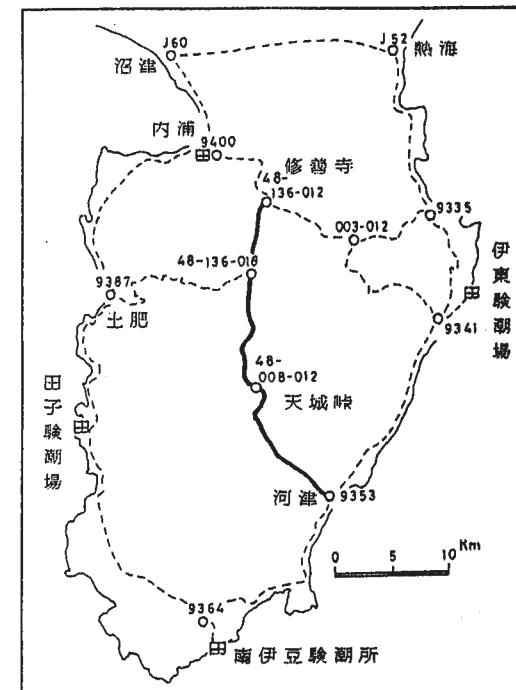


第3図 熱海・伊東・河津間の上下変動

Fig. 3 Level changes along the route from Atami to Kozu through Ito.

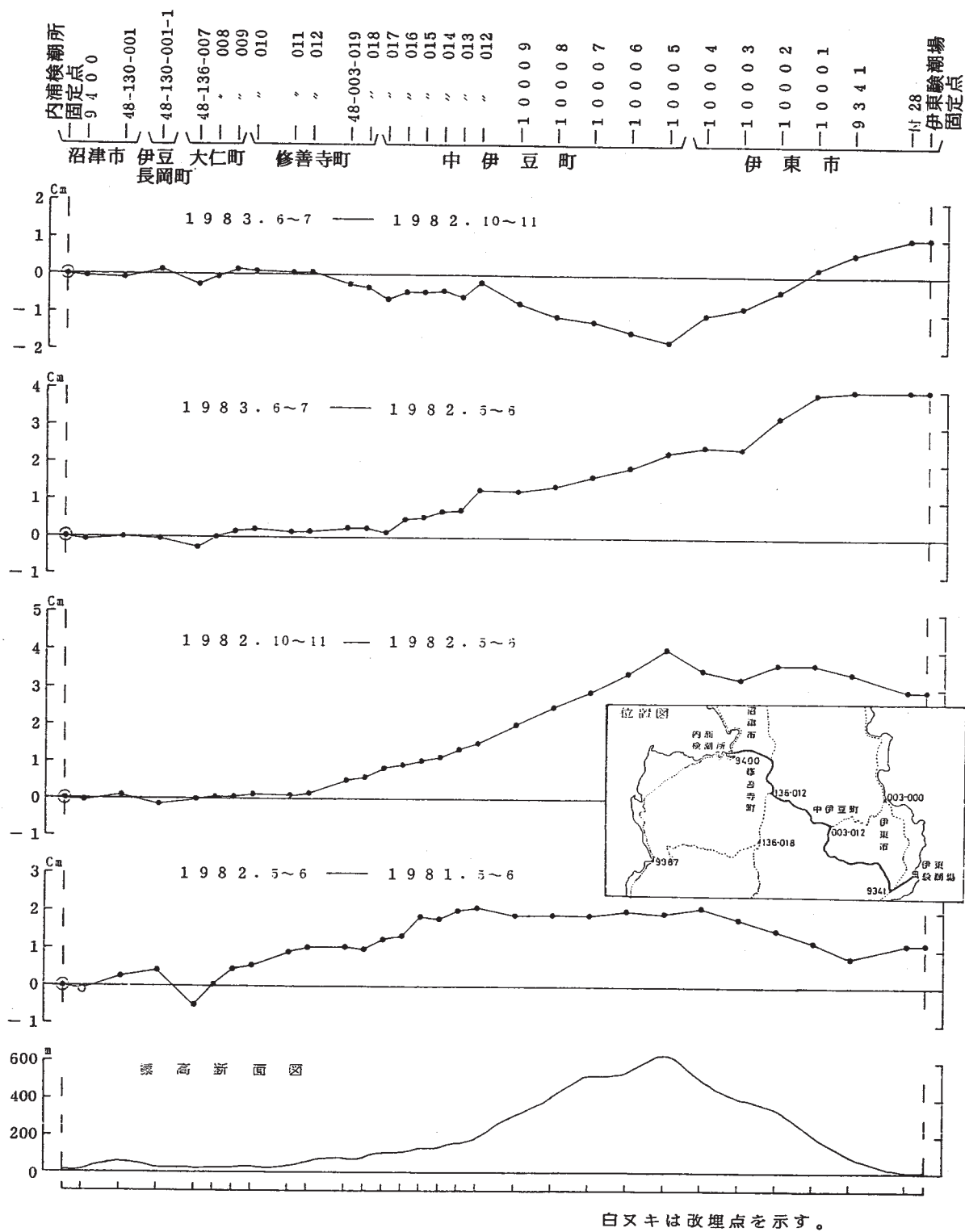


白又キは改埋点を示す。



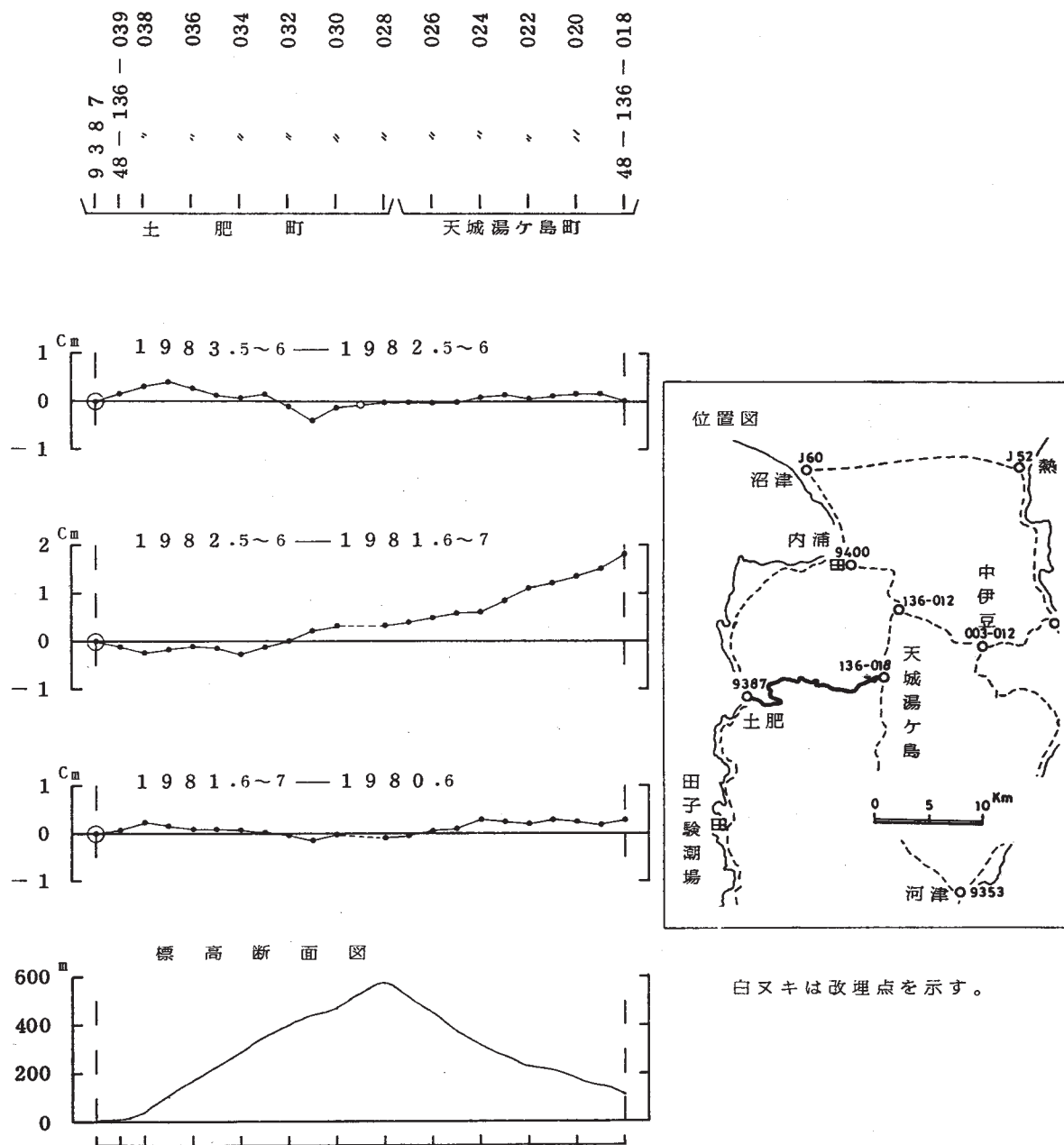
第4図 修善寺・河津間の上下変動

Fig. 4 Level changes along the route from Shuzenji to Kozu.

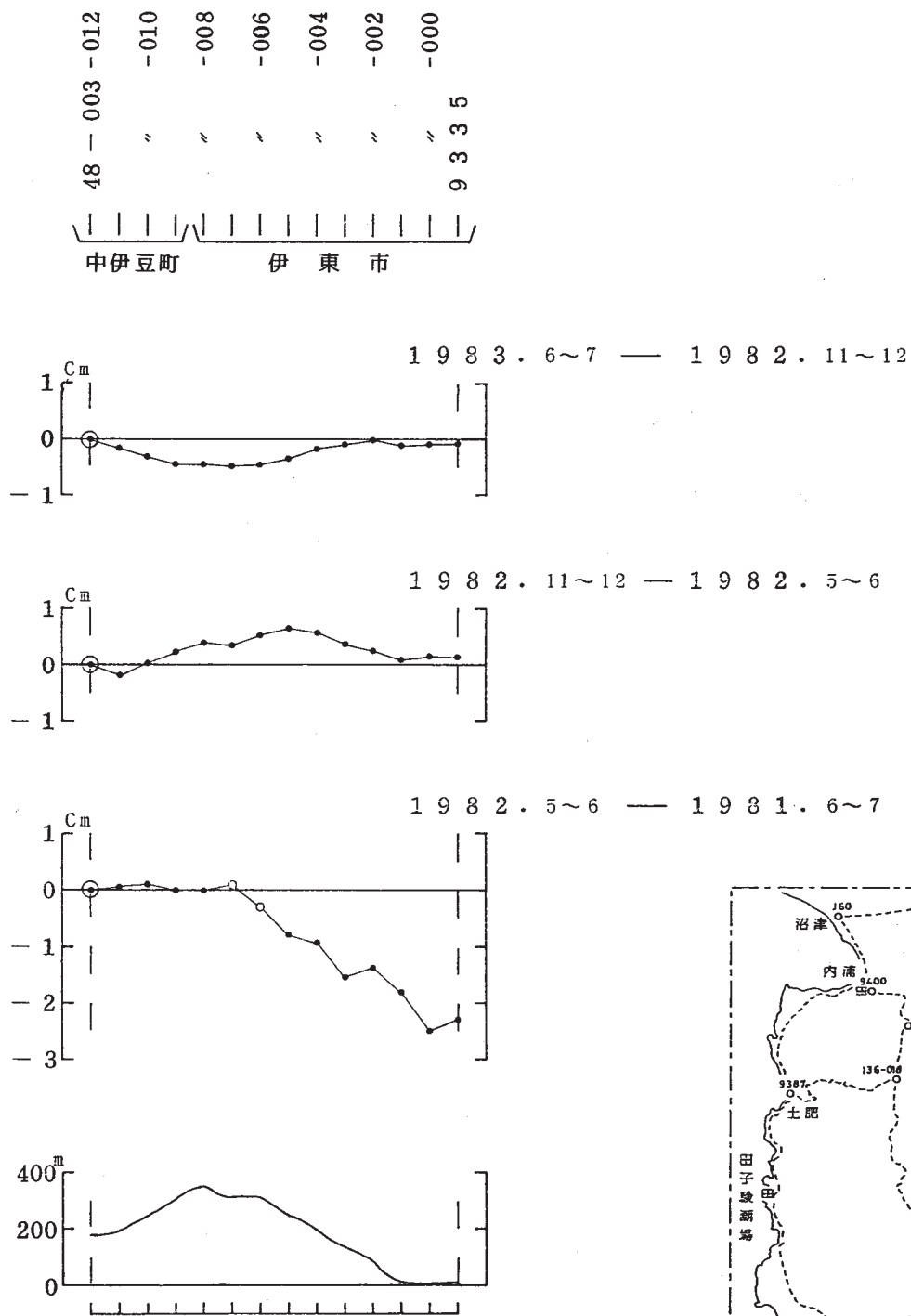


第5図 内浦・中伊豆・伊東験潮場間の上下変動

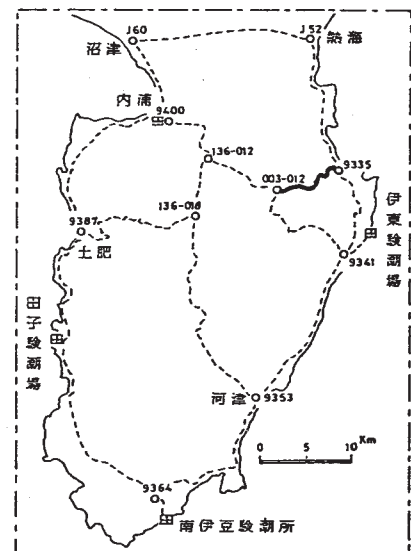
Fig. 5 Level changes along the route from Uchiura to Ito through Nakaizu.



第6図 土肥・天城湯ヶ島間の上下変動
Fig. 6 Level changes along the route from Toi to Amagi-Yugashima.

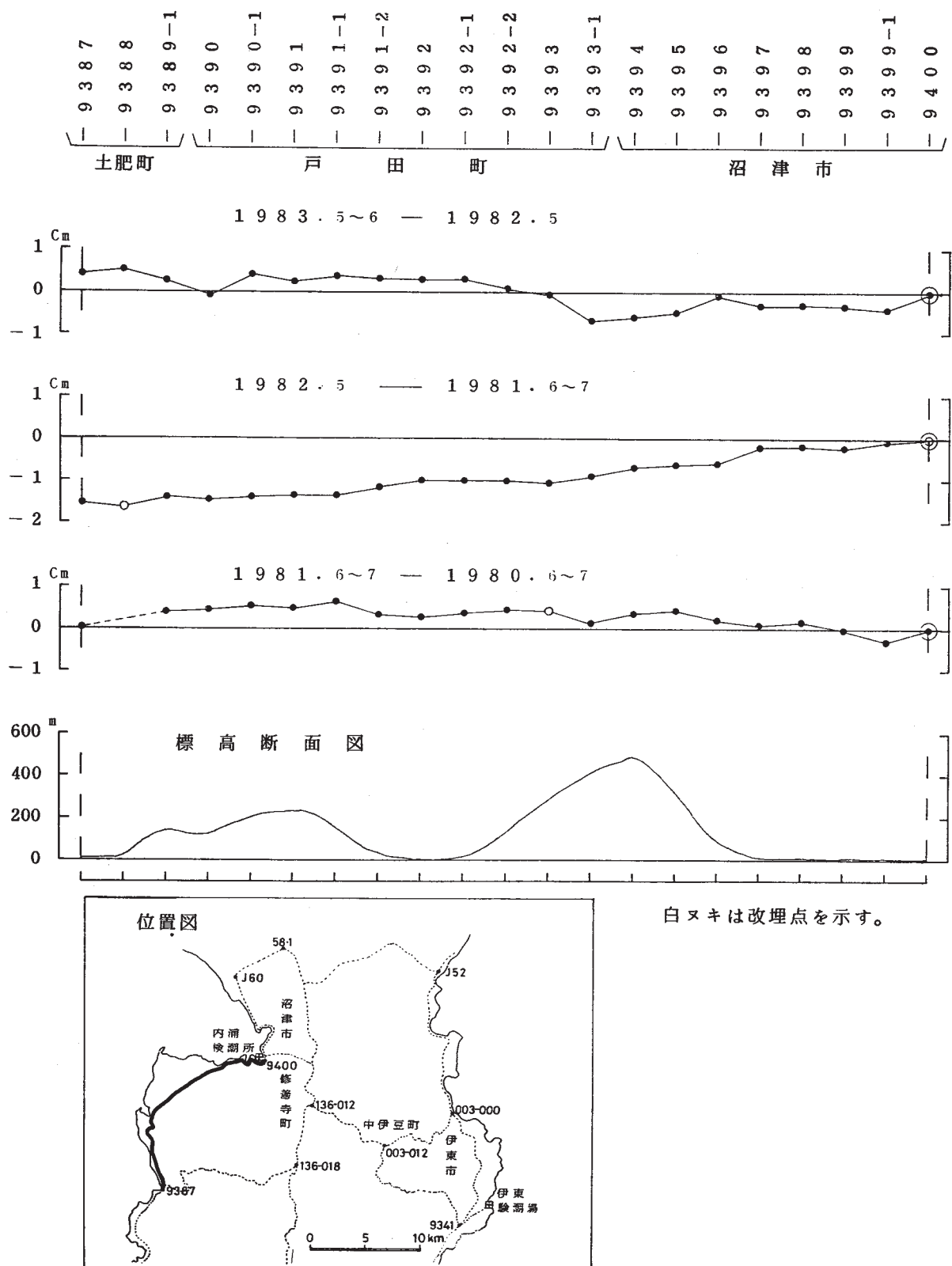


白又キは改埋点を示す。



第7図 中伊豆・伊東間の上下変動

Fig. 7 Level changes along the route from Nakaizu to Ito.



第9図 土肥・内浦間の上下変動

Fig. 9 Level changes along the route from Toi to Uchiura.

A horizontal scale bar with tick marks at 0, 5, and 10 km.

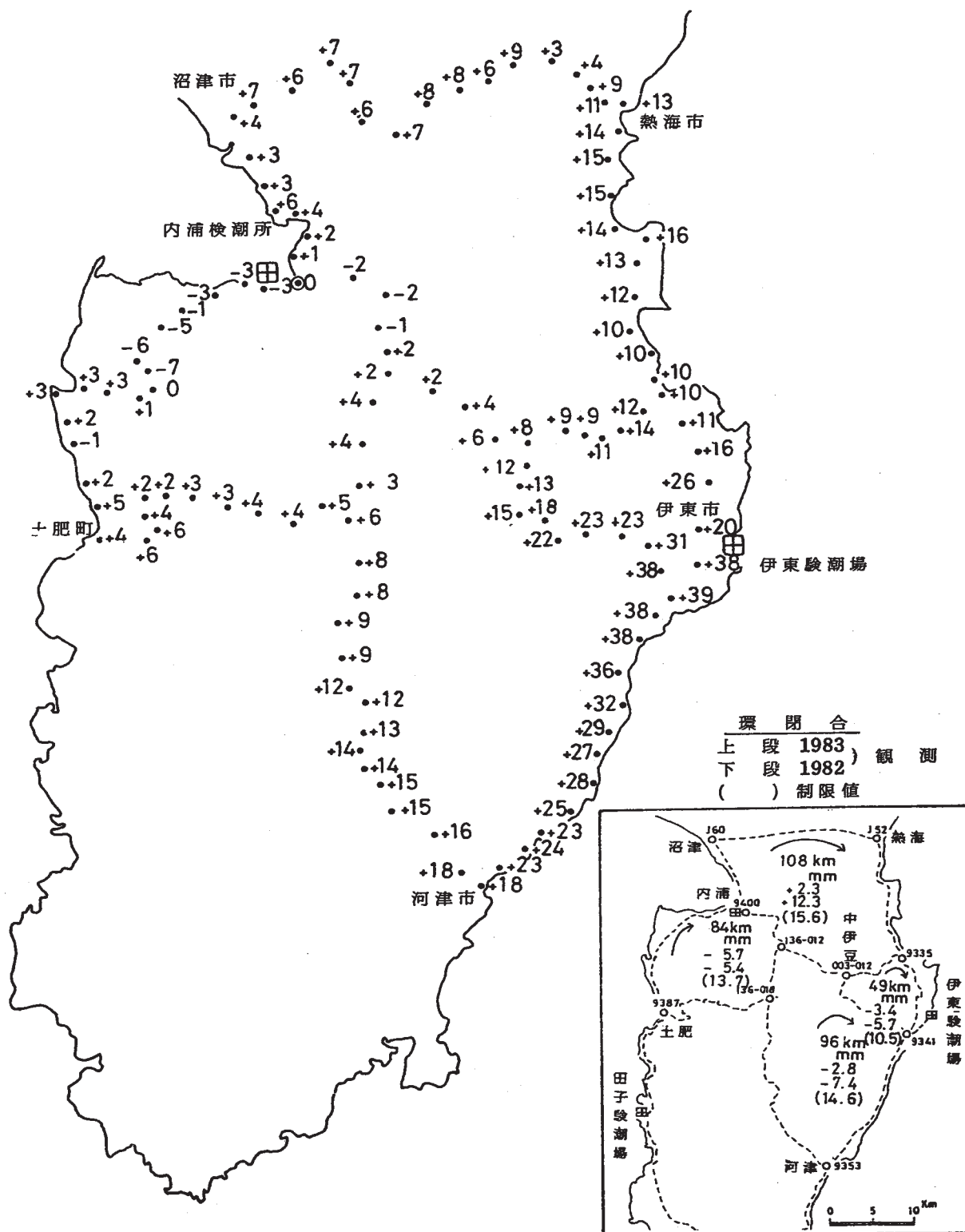
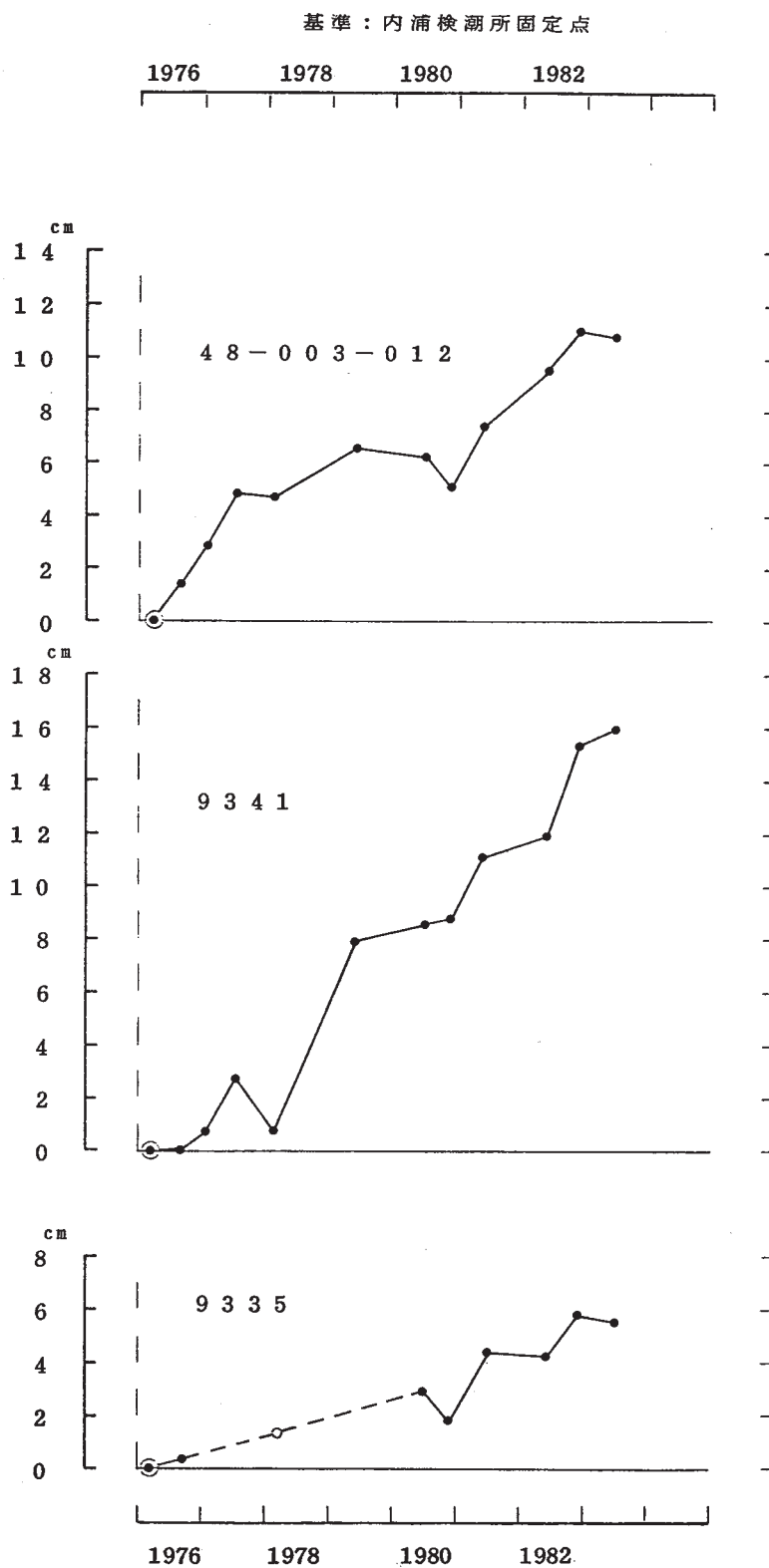
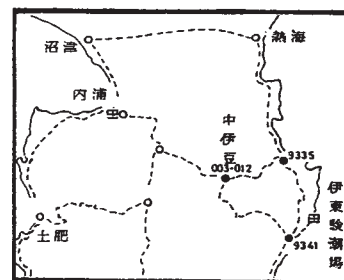


Fig.10 Vertical movement in the Izu Peninsula.



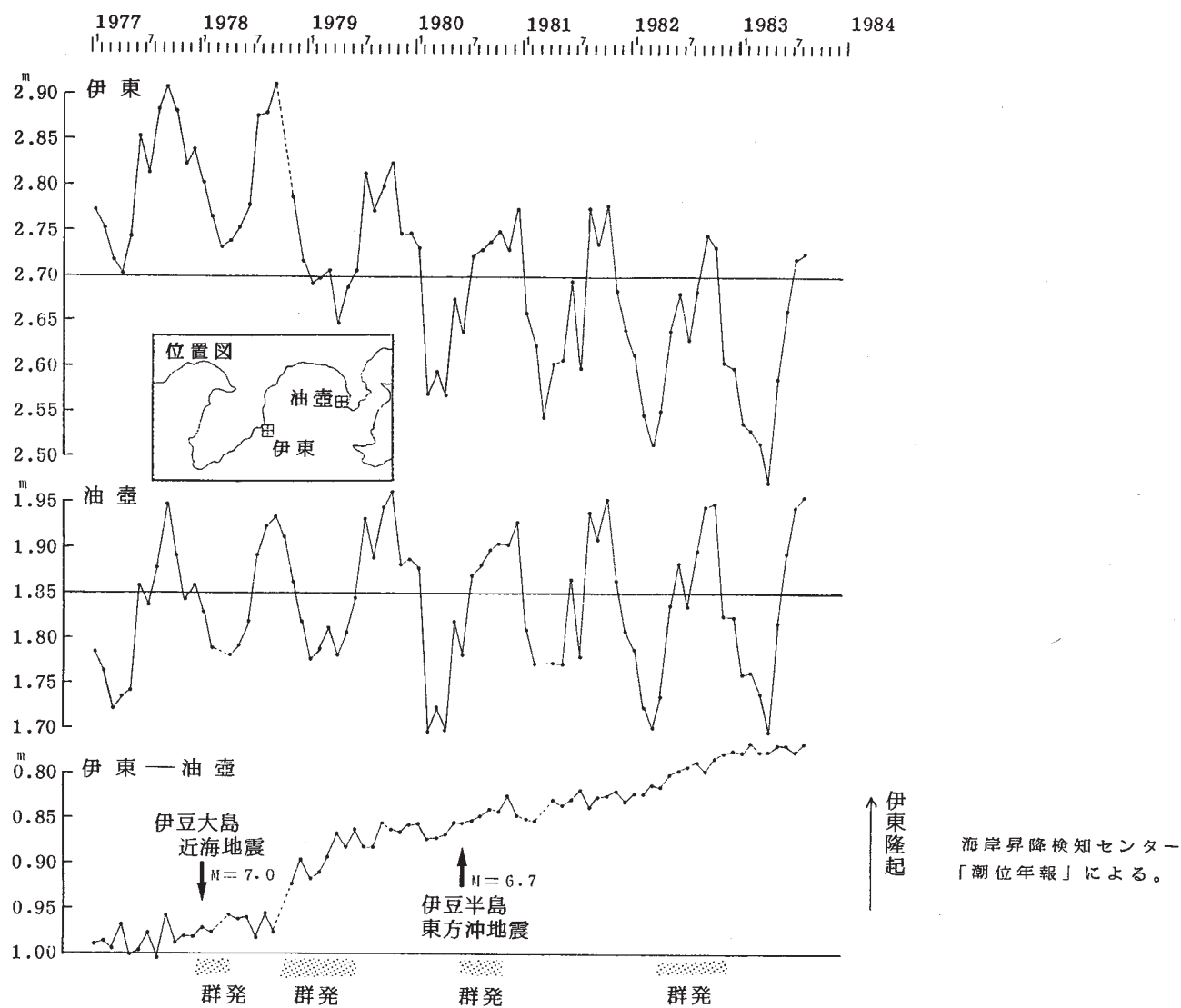
位置図



白ヌキは改埋点を示す。

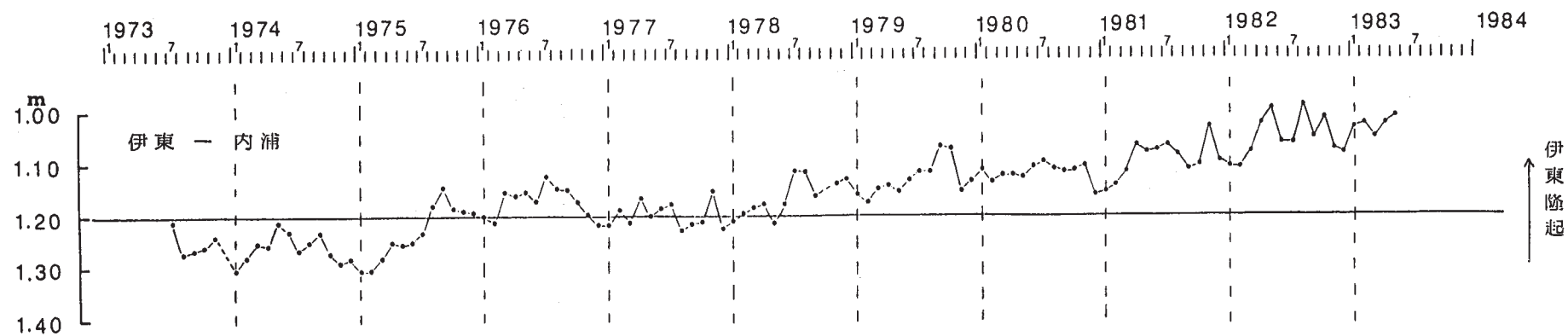
第 11 図 水準点の経年変化

Fig.11 Height changes of B.M. 48-003-012, 9341 and 9335 relative to Uchiura.

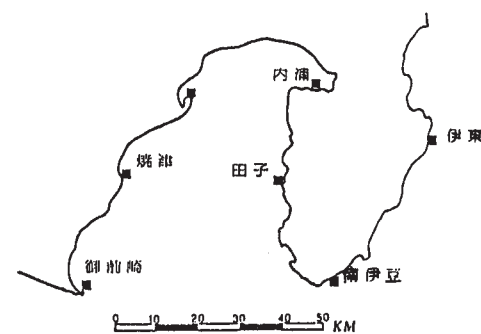


第 12 図 伊東・油壺験潮場の月平均潮位及び潮位差

Fig.12 Difference in monthly mean sea level between Ito and Aburatsubo tidal stations.



海岸昇降検知センター「潮位年報」による。

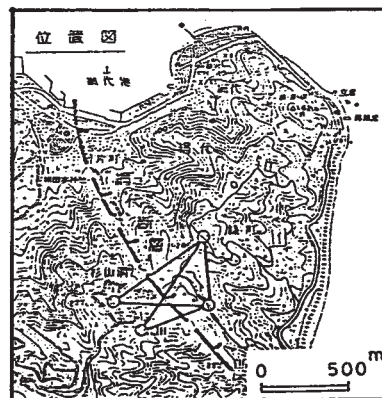
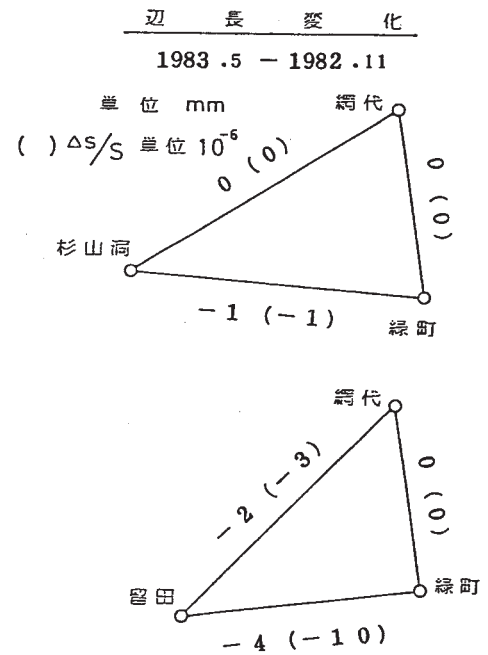
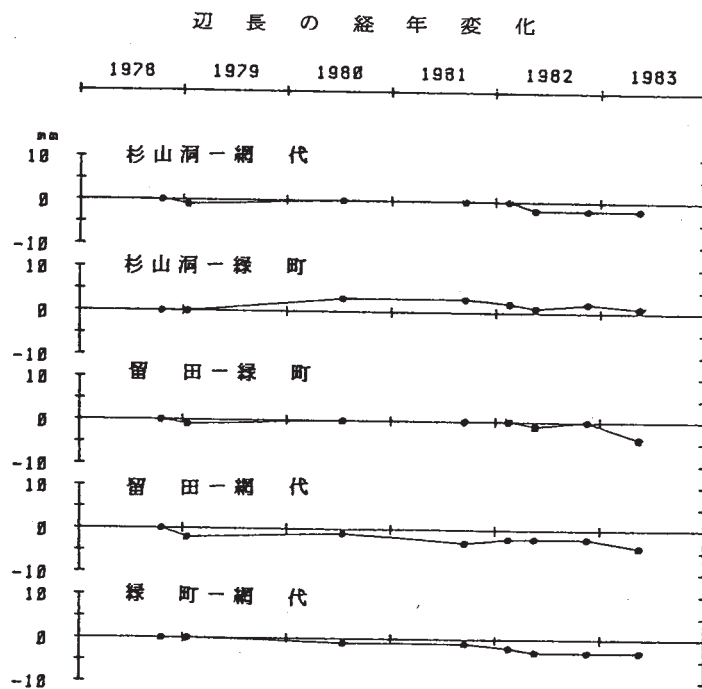


第13図 伊東・内浦験潮場間の月平均潮位差

Fig. 13 Difference in monthly mean sea level between Ito and Uchiura tidal stations.

測定年 ----- 区 間	1978.10	79. 1	80. 7	81. 9	82. 2	82. 5	82.11	83. 5
杉山洞－網 代	600.380	.379	.380	.380	.380	.378	.378	.378
杉山洞－緑 町	558.289	.289	.292	.292	.291	.290	.291	.290
留 田－緑 町	428.601	.600	.601	.601	.601	.600	.601	.597
留 田－網 代	601.783	.781	.782	.780	.781	.781	.781	.779
緑 町－網 代	327.846	.846	.845	.845	.844	.843	.843	.843

測器：メコメーター ME3000



(1)

第 14 図 網代・川奈精密変歪測量結果

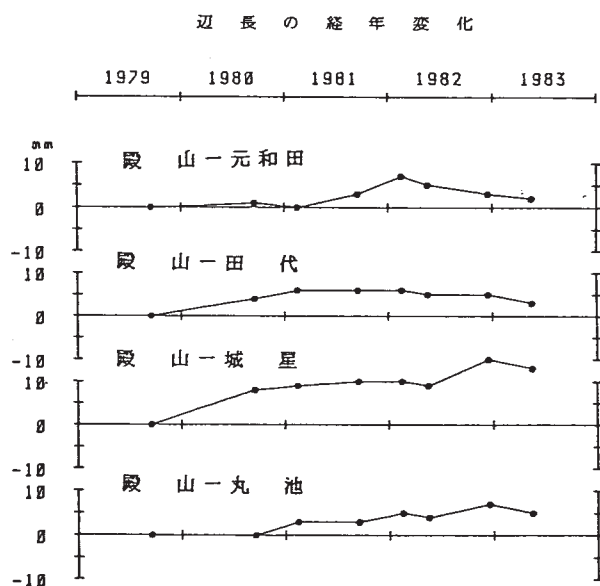
(1) 網代 (2) 川奈

Fig. 14 Results of radial base line strain measurements in Ajiro and Kawana.

(1) Ajiro, (2) Kawana.

測定年 区 間	1979. 9	80. 9	81. 2	81. 9	82. 2	82. 5	82.12	83. 5
殿 山 - 元和田	1009.478	.479	.478	.481	.485	.483	.481	.480
殿 山 - 田 代	667.040	.044	.046	.046	.046	.045	.045	.043
殿 山 - 城 星	1009.702	.710	.711	.712	.712	.711	.717	.715
殿 山 - 丸 池	939.505	.505	.508	.508	.510	.509	.512	.510

測器：メコメーター ME3000

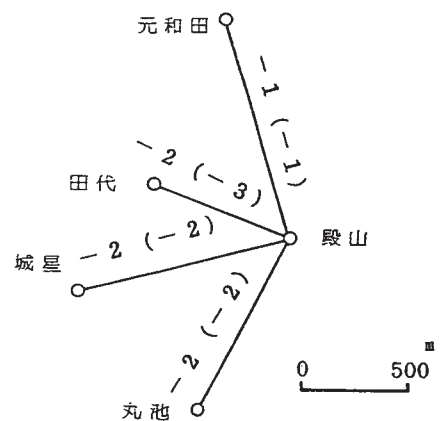


辺長変化

1983.5 - 1982.12

単位 mm

() $\Delta s/S$ 単位 10^{-6}



(2)

第14図 つづき

Fig. 14 (Continued)

観測年 区 間	I 1 9 3 1	II 73.2	III 74.6	IV 75.2	V 78.2~3	VI 80.9	VII 83.9~10	VII-I	VII-II	VII-III	VII-IV	VII-V	VII-VI
青野村～本郷村	7 017. ^m 04	6. ^m 99	^m	^m .05	^m .00	^m .00	6. ^m 99	- 5 ^{cm}	0 ^{cm}	^{cm}	- 6 ^{cm}	- 1 ^{cm}	- 1 ^{cm}
“ ～入間村	7 941.80	.82	.89	.91	.88	.88	.88	+ 8	+ 6	- 1	- 3	0	0
“ ～岩科村	6 676.91	.96	.91	.87	.89	.90	.89	- 2	- 7	- 2	+ 2	0	- 1
“ ～鉢ノ山	14 446.	.80		.86		.98	.96		+ 16		+ 10		- 2

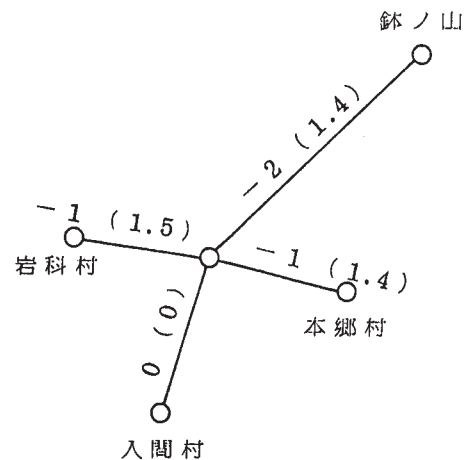
※ 1931 年の値は伊豆震災学術成果 (2) より、1974 年の値は静岡大測定による。(会報 /2 巻 p99)

辺 長 変 化

比較年：1983.9~10 — 1980.9

単 位：cm

()：Δs / S 10⁻⁶



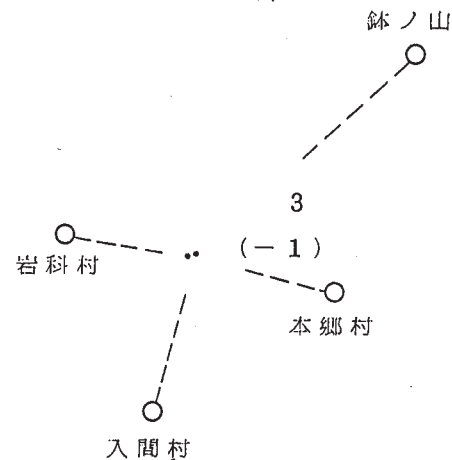
水 平 歪

比較年：1983.9~10 — 1980.9

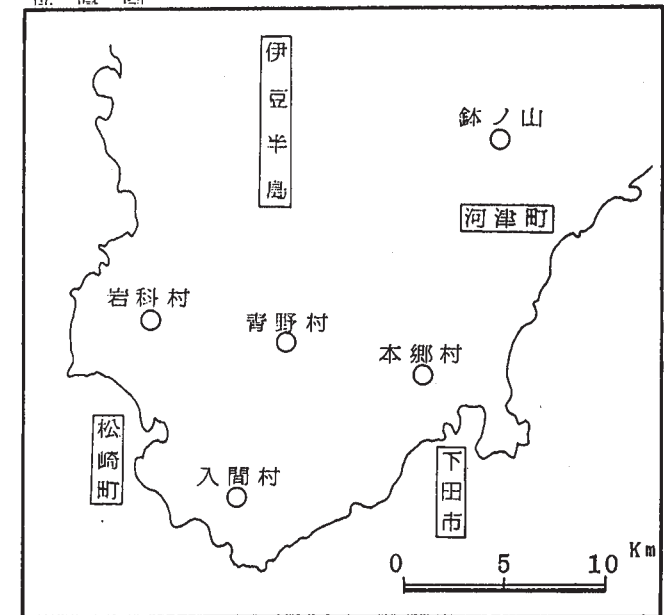
数 値：最大せん断歪 10⁻⁶

()：面積変化率 10⁻⁶

10×10⁻⁶ 伸 び
..... 縮 尺) 主 軸



位 置 図



第 15 図 南伊豆放射基線測量結果

Fig. 15 Result of radial base line strain measurements in Minami-Izu.